

# 藝園草牧

昭和二十八年七月一日(毎月一回)發行



夕張郡長沼町字幌内二〇六六  
雪印種苗株式會社  
中央研究農場

7

秋播種子特集號

雪印種苗株式會社



# 松島白菜の今昔

渡邊 穎 二

## ○私の育種事業へのスタート

大正五年学窓をでた私は、当時仙台市の郊外長町にあつた宮城県立農事試験場に入り、育種研究の第一歩を踏みだしました。品種改良事業の重要性がようやく当局の認めるところとなり、全国的に実施されるに至つた当初でありまして、宮城県としても稲・麦・大豆等が真先にとり上げられて育種事業のスタートが切られました。当時国内には育種関係の文献等ほとんどなかつたので、丸善書店に頼んで英国からブランドプリーディングといふごく簡易な育種の本を求めて、これを手掛りとして主任の猪狩技師の許で実務に当ることになりました。最初ヨハンゼンの純系説を基礎理論とする系統分離育種法が実施されたのであります。三、四年にして果然きわめて顕著な実績が現われ在来種を遙かに凌ぐ優秀な純系種が統出し、県農業生産の上に劃期的な増産を齎しました。ここに私は育種学の恩恵のあまりにも偉大なことに深い感銘を覚えずにはいられません。大正中期からごく最近まで宮城県の糯稲の大半をしめて三十五、六年の間、本県糯米の生産に多大の増

産効果を挙げた県の奨励品種「鶴糶一号」、試みた最初の育成種であるが、育成後数年ならずして在来種を駆逐して稈に劣らぬ収量を挙げ、稲作農家に喜ばれるありさまをみて、育種事業の社会に貢献するところがいかに大きいかを、いよいよ深く痛感せしめられ、自分の一生を最有効に社会に奉仕するの途は育種事業を措いて他に無しとの確信を深め、全生涯を品種改良事業に投ずる決意を固めたのであります。

## ○園藝作物の育種

大正十年試験場を退職し、早速園芸作物



筆者と園藝採種の白菜の盛り花

の育種に着手したのであります。当時仙台の伊達家養種園の沼倉吉兵衛先生は松島湾内の一孤島馬放島を利用して、支那から輸入された芝罘白菜を原種として隔離栽培に成功し、本県白菜の栽培に大きな貢献をされたのであります。しかしながら集団淘汰育種のものであり、かつ支那からの輸入種そのものはきわめて雑駁なものでありましたので、早晚大小、長短等幾多の系統から成る混系種で、稲麦等の純系淘汰育種の経験を持つ自分の目からみればきわめて純度の低い不揃いなものでありました。

当時私どもも直接北支那から輸入した白菜を栽培し育種の素材としたのであります。当時の園芸図書や種苗カタログには悉く結球白菜栽培上の第一の技術として間引きに際しての良苗の鑑定が大きく書かれているのを見まして、これは種子の雑駁なことに原因するに相違なく、

系統淘汰を行つて純度を高め隔離栽培によつて交雑を防いで採種すれば、良苗鑑定の技能を要しない、誰が間引いても立派な白菜になる種子ができるに相違ないと考え、早速系統分離にとりかかりました。しかし

ながら手をつけてみると、稲麦のごとき白花受粉を本態とする作物と違い、虫媒による他花受粉を本態とする十字花科のものとして勝手が違い、せつかくの選抜優秀個体も袋掛けでは全然種子ができなかつたり、できても極少量で使いものにならず、また、たまたま種子のできるものがあつても、親に比較しては問題にならない小型かつ發育の悪い弱いものになつたり、病害に弱かつたり、稲や麦にはみられぬ特殊現象に逢着

## 牧草と園藝 七月號目次

- ◆ 松島白菜の今昔……………渡邊 穎二……………二
- ◆ 結球白菜の品種とその栽培要点……………四
- ◆ 秋蒔蔬菜並びに草花の品種解説……………四
- ◆ 独乙パンジーの栽培……………重岡 義雄……………八
- ◆ 桜桃の害虫ウチイケオウトウハバチ……………清……………九
- ◆ 果樹害虫に対する新殺虫剤の効果……………川村英五郎……………一〇
- ◆ これから蒔く宿根草花と秋植球根の作り方……………佐々木篤太……………三
- ◆ 御註文のしかた…………………………五

してさんさん苦心いたしました。今にして思えば、自花不和合性や自殖弱性等の十字花科作物の持つ特殊遺伝現象になやまされたわけ、この種の遺伝研究がほとんどなかつた当時としては全く暗中摸索のものであります。

## ○育成品種を作出したよるこび

これら系統分離上の障害は蕾交配や母系淘汰法の活用によつて辛うじて打開され、大正十四年には不完全ながらひととおり系統分離ができたので、全国の研究機関に

サンプルを送つて試作を依頼しました。その結果は興津の園芸試験場を始めとして熊本、福岡、東京、宮城、北海道などの地方農事試験場から試験成績に添えて賞讃と激励の報告をいただきました。

ことに印象的なのは、北海道農事試験場からの御報告で、当時の園芸部主任白勢先生から「北海道では白菜の結球は困難と考へておつたが、松島白菜を試作したところ初めて見事な結球が得られた。きわめて有望ゆえ一層研究を進めるよう。」との激励をいただきましたが、これがどんなにか大きな自信と希望を与えていただいたかわかりません。

### ○北海道とのつながり

これより先、大正十二年から集団淘汰による原種を基にして松島湾内の桂島で採種に着手したのでありますが、最初の生産品から北海道との取引が始まりました。

昭和五年頃と記憶いたしますが、北海道方面における白菜の各系統の生態研究の目的で十月初め頃渡道し、農事試験場の圃場や琴似を初め郊外の栽培地帯を視察しましたが、この際特に感じたことは、宮城県に比較して結球期の系統間の差異が甚しく短縮され、早生と晩生の開きがきわめて少く、あたかも春の北海道においては梅も桜も花がいつしよに咲くというような現象が白菜の熟期の上にもみられることであります。また特に驚いたことはダイコンウジと称する恐るべき害虫による被害で、内地では想像もつかない惨害に栽培家がなやまざれてゐることであります。

### ○白菜品種のあれこれ

この旅行の際の観察では、松島純二號が

最好評のようでありましたが、これは結球期の早いことと適応性の高いことによるものと思つております。この系統は二十数年を経過した今日なお交らぬ人気を保持して全国的に愛用されておりますが、名称は同一でも内容的には時代の推移とともに変化していることと育成者として一応申上げておきたいと思ひます。

昭和十二年頃までは専ら系統内の集団淘汰によつて原種を維持したのであります。昭和十三年頃からは優秀組合せの内系の分離に成功し、その内系間の一代交配のものを純二號種として発売し、非常な高性能を發揮して栽培家に喜ばれました。しかしながら大東亜戦争末期に至つては極度の手不足から両内系の維持困難となり、昔の集団淘汰に逆戻りするのやむなきに至り、終戦後再び内系の分離に努力中でありましたところ、漸く昨年に至つて目



松島交配五号種

標に近い優秀内系の分離に成功しましたので、ここ兩三年中には往年以上の優秀一代交配種として発売できる見込であります。純二號種よりやや大型の多収性のものとして育成した大型二號種がありますが、多

収用あるいは品評会出品などとして純二號に次いで北海道では愛用されておりますが旭川のような寒い地帯でも驚くような性能を發揮しているのは意外に思われました。

**松島白菜新二號種**は戦時中に育成した巨大球種であります。これは昭和十四年極早生の燕号種と純二號A六号系との交配種の中に発現した早生巨大球の個体五株を分離育

成したもので、昭和十八年発表以来全国的に急速に普及した品種であります。昭和二十四年秋渡道した際各地で見聞したのは、札幌では新琴似方面、帯広を中心とする十勝方面、釧路では鳥取方面で、内地で

はみられぬ巨大球となり、超多収用として到るところで素晴らしいでき栄えであつたのには育成者として実に嬉しい限りでありました。

芝罘型のものとしては早生の松島純三號、晩生の宮城二號種が久しい間喜ばれておりますが、二十四年から発売の一代交配種も道内の熱心家によつて試作された成績はきはめて有望であります。交配五號種は一代交配種中の早生種で、秋の早出しに、また春時結球としても優秀な成績を挙げておりますが、北海道の早出し用として、また春時用としても有望かと思ひます。

白菜類の花芽の形成は低温感応によつて發現するという、いわゆるバーナリゼイシヨンの原理に基づいて、春時栽培の場合、外気の低温期中温床内で撰氏二十度ぐらいの温度で育苗し、晩霜がなくなつてから植出せば秋の白菜にとろろ見事な白菜が初夏に収穫できますことと秀より発売いたしました。(雪印種苗会社は明春より発売いたします。)その最適品種の育成にも努力中でありますが、その分野の開拓は将来きわめて興味深いものがあると思ひます。

### ○むすび

時代の推移は白菜に求める形質の上にも幾変遷のありますことは申すまでもありません。果して然らば、育種家には一の完成種もあるはずがありません。私どもの育成品種も三十年にわたる苦心研究にもかかわらず、微力今なお会心の域を隔ることあまりにも遠きを感ずるものであります。私どもは限りなく高き理想の夢をこの未完成の品種の上に描きながら懸命の努力をその改善のために続けるのであります。

(筆者は宮城縣・渡邊採種場主)